

職能要件書 職能評価シート

職種	放射線技師
専門部署	放射線部

完全にできている	0	←半角数字の「0」(ゼロ)を入力
まだ不十分	*	←半角の「*」(アスタリスク)を入力

「0」が90%以上あれば、この等級は完全クリアーしている。

部署	
氏名	
現状把握時の等級	
仮格付け時の等級 (給与レベルにあった 当初の等級)	
第1回評価時の等級	
第2回評価時の等級	

【入力手順】

- 今年度の等級を左枠で確認し、該当等級までの項目を全てチェックして下さい。
(該当しない項目はその行を削除してください)
- 「等級」は「独力対応等級」の欄に記載してあります
- 「0」又は「*」を入力 (○×は入力が大変な為、この記号を使用します)
※次年度は「*」の付いている項目のみチェック。但し、等級が上がる方は上の等級もチェックが必要です。

単位業務 (大まかな区分)	作業名	作業内容 (～して～ができる)	応独 等力 級対	現状レベ ル把握の 為の評価	第1回 評価 ()	第2回 評価 ()
受付	撮影患者の受付伝票の整理と 集計	1 入院、外来患者の受付、撮影室への案内と対応ができる	1			
		2 フィルム画像を整理・チェックし、各科毎に提出をすることができる	1			
		3 照射録を業務別に整理し、年度別に保存できる (5年保存)	1			
インフォームド・コンセント		1 患者の確認を適切に行える	1			
		2 患者が検査に協力してくれるように、最初に検査内容を明確に説明し、患者からインフォームド・コンセントを得る、もしくは得たことを確かめることができる	1			
		3 倫理的・道徳的配慮ができる	1			
ペーシ		1 以前に実施した撮影で、必要な情報が得られていることはないことを確認し、関連病歴が得られていることを確認できる	1			
		同時に進行される処置や検査によって良好な撮影結果が妨げられないことを確認し、準備指示または前投薬、また造影剤投与されていることを確認することができる	1			
		撮影の方法であるかどうかを判断するために、確認することができる	1			
		撮影が行われており、適切な	1			
単	泌尿器、生殖器系の造影撮影	3				
		1 脊髄腔造影 2 肘、肩、股関節造影 3 瘻孔造影透視撮影ができる	1			
			2			
			3			
造影撮影	消化管造影(1)	1 医師施行による検査の介助透視 ①ERCP ②PTC(D) ③小腸透視撮影 ④Baの混合調整				

単位業務 (大まかな区分)	作業名	作業内容 (～して～ができる)	応 独 等 力 級 対	現状レベ ル把握の 為の評価	第1回 評価 ()	第2回 評価 ()	
CT	単純CT撮影(1)	1 スクリーニングのためのルーチンCT検査撮影ができる ①頭部、胸部、腹部撮影 ②骨盤部、下肢の撮影	1				
CT	造影CT撮影(1)	ルーチンによる造影撮影 ①頭部、胸部、腹部撮影 ②骨盤部、下肢の造影 ③造影検査終了直後の撮影 脊髓腔造影、血管撮影、唾液腺造影	1				
健康管理	健康診断(1)	1 胸部直接単純撮影ができる(フィルムの現像と整理)	1				
保守点検修理(業務共通 作業)	定期点検と始業点検および使 用施設内の清掃	1 装置の定期点検の実施により、保守と管理を行うことができる	1				
		2 始業点検を行い、異常の有無をチェックすることができる	1				
		3 装置および施設内の清掃、撮影補助器具の補修、整理整頓を し、環境整備に努めている	1				
	点検による報告と異常発生時の 対応	1 異常状況を報告をするとともに、できる範囲にて修理ができる。ま た記録ノートにその原因等を記載できる	1				
		2 異常発生状況、原因を把握しメーカーの技術者に詳細を報告が でき、修理現場に立会い、今後の参考として修理記録の記載を することができる	1				
	安全・品質管理	1 患者、スタッフ、その他のすべての人々に対する危険を可能な 限り最小にすることができる	1				
		2 装置を安全に、また正しく使用することができる	1				
		3 装置の性能を常時監視することができる	1				
	1等級職員の等級判定(○の個数)			個数	0	0	0
1等級職員の○取得率			35	0%	0%	0%	